

mirajet Forté

ユーザーマニュアル

CE
0068

File No.	MJ-UM-01-001-EN
Creation No.	MJ-FPM-01-001-EN
Revision Date	2023.04.27 (Rev.5.1)



JSK Biomed Inc.

Copyright © 2018 JSK Biomed Inc.

本ユーザーマニュアルは著作権法で保護された著作物です。本取扱説明書の全部または一部を、当社の事前の書面による承諾なしに、複製、公衆送信、頒布、翻訳、ソーシャルメディアその他の電子機器に転用することを禁じます。

6. 使用方法

① インジェクター

② 使用前の準備

- 1) 本品は完全滅菌・密封されていますので、包装の破損や欠品がないことを確認してください。
- 2) 有効期間やパッケージが破損していないことを確認してください。
- 3) 製品の使用方法をよく理解してください。
- 4) レーザー装置のハンドピースをmirajetに交換してください。
- 5) ハンドピースを装着後、レーザー装置本体の電源を入れ、施術の準備をします。

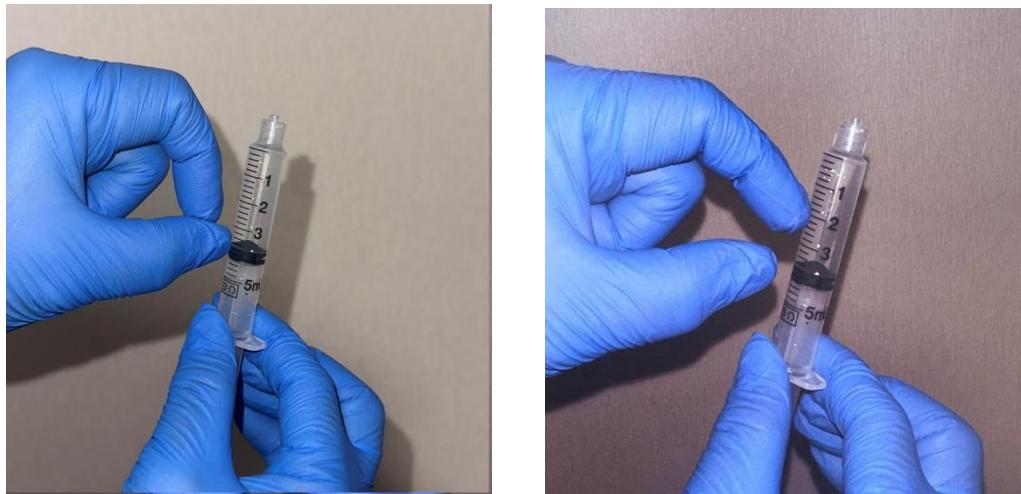
③ 使用方法と操作手順

- 1) カートリッジとシリンジをパッケージから取り出す。
(3mlまたは5ml容量のルアーロック付きシリンジを使用することができます)



<カートリッジとシリンジのパッケージ>

- 2) シリンジに薬液を充填する。その際、内部に気泡が入らないようにします。
※シリンジを叩いて、気泡を完全に除去する手順を数回繰り返します。



3)薬剤を充填したシリンジをカートリッジにしっかりと接続する。



< シリンジとカートリッジの組み合わせ >

注：シリンジをカートリッジに接続する際、ルアーロックをきつめに固定してください。

4)カートリッジを上方に向け、薬剤がミラジェット内に充填されるまでプランジャーをゆっくりと押す。先端から薬液が噴射されるので、ウェスを用意してください。



< カートリッジ写真 >

注：チャンバー内の薬剤量は約0.253 ml

5) カートリッジを軽く20回叩き、薬剤がカートリッジ内に十分に充填されるようにする。



注：軽く叩いた後、プランジャーを押すと気泡が上部から抜けますので、

(4)～(5)の操作を2～3回繰り返し、カートリッジ内部の気泡を抜くようにしてください。

- 6) アーム先端にミラジエットを接続して先端を上に向けます。
- 7) ミラジエットを上に向けたまま、先端にシリンジを装着したカートリッジを接続します。



< レーザーアームへの接続 >

- 8) レーザーパラメーターを下記の数値に設定します。
さらに先端を上に向けた状態で100パルスほど照射して、カートリッジ内部の気泡を排出します。

【Er:YAG】	>	【Expert Er:YAG】	>
ハンドピース	:	R11	
照射径	:	4mm	
モード	:	MSP	
周波数	:	15Hz	
出力	:	6.2J/cm ²	



注：照射中に噴霧時の音が変化した時や、注入がうまくいかない場合は、(4)～(8)の操作を繰り返します。

施術パラメータ(SP /XS Dynamis/TimeWalker)

トップ画面から、【Er:YAG】>【Expert】を選択する。

ハンドピース :R11 ※

モード :MSP ※

照射径 :4mm ※

周波数(Hz) :10~50Hz(施術による) ★TWは30Hzまで

出力(J/cm²) :0.1~6.2J/cm²(施術による) ★TWは5Jまで

(※:この項目は変更しないでください)

○スタッキングモード(スカー治療)

・パラメーター:

周波数(Hz) :10~15Hz

※周波数=速度+痛みの上昇

※ダウンタイム有り。(約3~7日程度)

出力(J/cm²): 5~6.2J/cm²

(痛みに応じて下げる)

※最低 4.5 J/cm²



1)表面麻酔で麻酔をかける。

2)麻酔中に、ミラジエットとカートリッジを準備する。

3)麻酔を拭取り、噴霧する面に対して、約45°の角度で
グリップを構え、1か所に4~6スタックする。

皮下に薬液が注入されたら、次の部位に移動する。

4)施術が終了した後は、出血部を拭取り、軟膏で保護します。

・注意事項

照射部位の皮膚を、軽く押し広げた状態で施術する。

先端を皮膚に強く押し付け過ぎない。

顔の施術中は、目を開けないように注意する

噴霧時の音が変化した時や、皮下に薬液が入らなくなった場合は、シリンジや
カートリッジ内に気泡が入っている可能性があります。その場合は、
パラメーターを3~7)の設定にして、ミラジエット先端を上に向けた状態で
100ショットほど照射します。

※再開するときには、出力設定にご注意ください。

○トーニングモード(リジュビネーション治療)

・パラメーター:

①ダウンタイム無し。

周波数(Hz): ~50Hz(基本40Hz)

出力(J/cm²): ~1.2J/cm²

※皮膚の弱い部分は0.6~0.8J推奨
(目周り、額、頸下等)



1) ミラジェットとカートリッジを準備する。

2) 噴霧する面に対して、約45°Cの角度でグリップを構えます。

3) 皮膚から0~1mm程度の距離で2~3センチのエリアにむらなく噴霧し、顔全体で合計約20000shot噴射

※打ち方: 1つのエリアを、縦・横・渦巻に噴霧。滑らせます。

②ダウンタイム有り。(約3~7日)

周波数(Hz): ~50Hz(基本40Hz)

出力(J/cm²): 2.4J/cm²

※皮膚の弱い部分は1.2~1.6J推奨(目周り、額、頸下等)

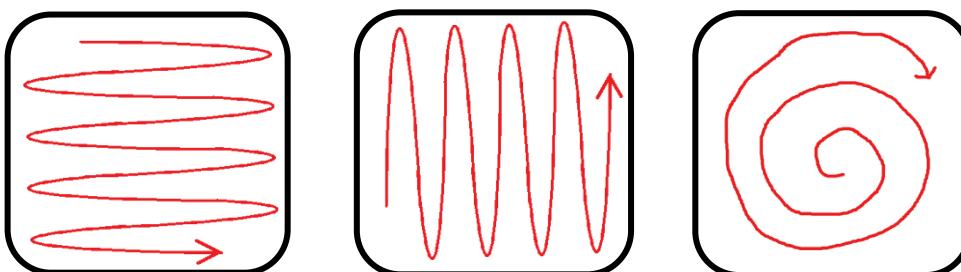
1) 表面麻酔で麻酔をかける。(①の場合)

2) 麻酔中に、ミラジェットとカートリッジを準備する。

3) 麻酔を拭取り、噴霧する面に対して、約45°Cの角度でグリップを構えます。

4) 皮膚から0~1mm程度の距離で2~3センチのエリアにむらなく噴霧し、顔全体で合計約20000shot噴射

※打ち方: 1つのエリアを、縦・横・渦巻に噴霧。滑らせます。



・注意事項

先端を押し付けないように、表皮上を滑らせます。

部位によっては、出力の調整が必要になります。

ダウンタイム無しの場合でも術後3時間程度は皮膚の赤みが有り、化粧は当日は不可です。

ダウンタイム有りの場合は、施術部位の出血、赤みなど3~7日のダウンタイムが生じます。

※スタッキングモードのコツ

・スタッキングモード

注入部位の面に対して、約45度の角度で構える。

ミラジェットの先端を照射部位に軽く触れさせる。

先端を皮膚に押し当てて先端の穴を塞がない。



・基本的なパラメーター

・スタッキングモード

ハンドピース：R11	モード：MSP	照射径：4mm
Hz：10～15Hz	出力：4.5～6.2 J/cm ²	打ち方：1か所に4～6ショット

※

・トーニングモード(ダウントайム無し)

ハンドピース：R11	モード：MSP	照射径：4mm
Hz：40Hz	出力：0.6～1.2J/cm ²	打ち方：トーニングでムラ無く

※照射後に3時程度の赤みが生じます。

※目元、額、首下は痛みを感じやすい部位なので、0.6～0.8J/cm²程で施術してください。

・トーニングモード(ダウントайム有り)

ハンドピース：R11	モード：MSP	照射径：4mm
Hz：40Hz	出力：1.6～2.4J/cm ²	打ち方：トーニングでムラ無く

※出力が高くなると、3～7日程度のダウントайムが生じます。

※目元、額、首下は痛みを感じやすい部位なので、0.6～0.8J/cm²程で施術してください。

※トラブルシューティング

・注入できない場合

①6-3(4)～(8)の操作を行ってください。

ミラジェット先端を上に向けた状態で約20回カートリッジ部分をたたいた後、100ショットほど噴霧します。

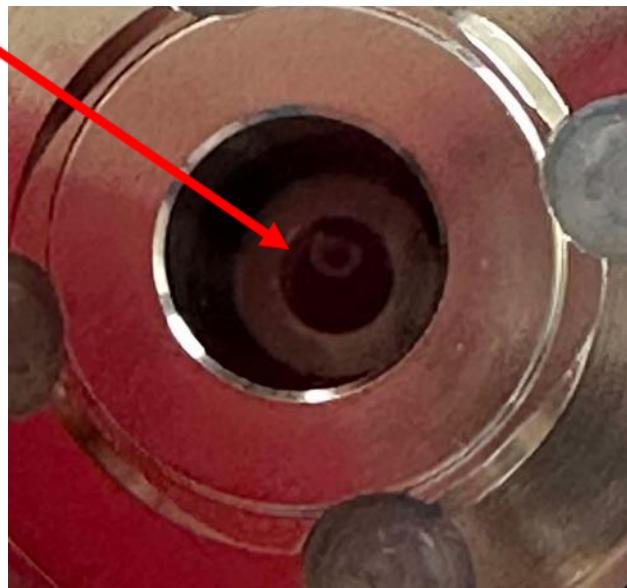
②それでも改善しない場合、カートリッジをミラジェットから外します。

カートリッジとミラジェットの接続部分を覗くと、約5mm径のレンズが内部に見えます。

カートリッジ先端を下に向け、軽く振動を与えた後、レンズ部分に気泡が集まるか確認してください。

気泡が確認できた場合は、そのカートリッジは使用できません。

(新品のカートリッジと交換してください)



※初期不良により未使用の状態で気泡が確認される場合があります。

③シリンジが空の状態で、照射し続けないでください。

内部のメンブレン部分が破損する可能性があります。

④シリンジを外した状態で、照射し続けないでください。

内部のメンブレン部分が破損する可能性があります。